

## コイノニアとしての教会

使徒パウロは1章9節で「神は真実なお方です。この神によって、あなたがたは神の子、わたしたちの主イエス・キリストとの交わりに招き入れられたのです」と言う。「招き入れられた」という動詞は「エクカレオー」（呼び出す）の受身形で、教会を表わす「エクレシア」の語源となった非常に重要な言葉である。

「エクレシア」とは、もともと会議のために召集された人々の集まりを意味した。ギリシャは都市国家であって市民は何かの度に召集されて会議が行われた。この「都市を取り締まるために選ばれた人々の一団」「召集された人々の集まり」が「エクレシア」と呼ばれた。

主イエスはこの言葉を「あなたはペトロである。私はその上にわたしの教会（エクレシア）を建てよう」というように、ご自身の民に適用された（マタイ 16:18）。神の恵みによって選ばれ、この罪の世から「召し出された」人々の群れ、キリストの恵みによって罪贖われ、この世から「召し出されたキリスト者の群れ」、これがエクレシアである。

パウロが今この9節で使っている動詞はこの「呼び出す」「召し出す」という動詞の受け身形である。彼は言う「神は何と真実なことか！ この神によって、あなたがたはこの罪の世から、呼び出された！（何に呼び出されたのであるか？）」「御子、わたしたちの主イエス・キリストとの交わり（コイノニア）に呼び出され、招き入れられた」という。

ここでもう一つ、キリスト教信仰にとって重要な「コイノニア」という言葉が出てくる。もともとは「共有する」の「共有」「共に分かち合う」の意味であるが、これが「交わり」としての教会を表す言葉の一つとなった。教会（エクレシア）とは救い主キリストとの生命的交わり（コイノニア）に生きる者の群のことである。

「交わり」という言葉を私たちは頻繁に使う。私たちキリスト者の好きな言葉の一つである。しかし、多くの場合、この言葉はお互い同士の「おつきあい」という意味で使われているのではないかと思う。この教会は交わりがいい、あの教会は交わりが良くない、あそこは暗い、ここは冷たい、というように、教会ではお互い同士の交わりが第1とされているように見える。

しかし、聖書のいう「交わり（コイノニア）」とは、第1に人と人との交わりのことではなく、「救い主キリストとの交わり」のことである。神が私たちを罪の中から召し出して、キリストとの生命的交わりに入れて下さったということ、このキリストとの生命的交わり、ここに福音の恵みの中心があり、教会の生命の核心があるのである。

教会とは単なる人間の集団ではない。第1に神の恵みによって罪からあがない出されて、キリストとの生命的交わりに入れられた者たちのことなのである。従ってこのような生けるキリストとの生命的交わりのない教会は、同好会のような単なる人間の集団にすぎなくなる。私たちが命の君であり救い主であるキリストと一体とされ、その結果、キリストの命が私たちの命となり、私たちはキリストの命に生かされて生きる者に変えられていく、このキリストとの生命的交わりが「コイノニア」と呼ばれるのである。このキリストとの交わりのあるところに、信徒間の真の交わりも実現するのである。